思考力・判断力・表現力の育成

~国語科・算数科における言語活動の充実をとおして~

I. 主題設定の理由

本年度より完全実施される新学習指導要領には、『総則』の1において「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむ・・・」と記されている。思考力、判断力、表現力は新指導要領において、まさに学力観の中心をなすものである。本校では、これまで思考力、判断力、表現力の育成を研究のテーマとして取り組み、一定の成果を得てきた。しかし一方で本校児童の実態を見ると、「言葉で表現すること」、「比較検討が発表で終わってしまうこと」といったことが課題となっている。

そこで今年度も引き続き思考力,判断力,表現力の育成を目指し研究に取り組んでいくこととした。具体的には,国語科,算数科において言語活動を充実させた授業づくりを中心に据える。「児童の思考力,判断力,表現力等をはぐくむ観点から,基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに,言語に対する関心や理解を深め,言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え,児童の言語活動を充実すること。」(新学習指導要領『総則』 4)とあるように思考力,判断力,表現力の育成には言語活動の充実が必要不可欠だからである。

これまでおこなってきた日々の言語活動を取り入れた学習活動を効果的な指導に改善していくために、優れた指導事例を共有しさらに開発・実践していくことが有効であると考える。児童がお互いに伝え合い、認め合いながら集団の力を生かし、自分や集団の考えを深めていく授業をめざし研究を進めていきたい。

Ⅱ.研究の内容

- 1 研究の内容と方法
- (1) 研究テーマに関わった理論や先行研究を学ぶ。
- (2) 言語活動の充実を意識した授業研究・授業実践を行う。
- (3)「特別支援教育」についての研修会
- (4)「新学習指導要領の完全実施」に関わる研修会
- 2 研究実践
- (1) 学習会
 - 6月 クリティカルリーディングについて
 - 8月 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた対応

講師 土肥 満先生(南アルプス市立 落合小学校)

(2) 授業研究

第4学年 算数科 教材名「広さを調べよう」 授業者 山宮 将仁教諭 【言語活動の充実活動の充実に関わって】

> ○具体物を用いたり、言葉、数、図、式を用いたりして考え、説明する活動 指導助言 峡東教育事務所 萩原 徹 指導主事

第6学年1組 算数科 「資料の特徴を調べよう」 授業者 村田 裕美教諭 【言語活動の充実活動の充実に関わって】

○グラフに表したり、読み取ったりする活動

指導助言 峡東教育事務所 小林 俊彦 指導主事

(3) 授業実践

第1学年1組 算数科「10よりおおきいかず」 授業者 小林 みずほ教諭 第1学年2組 算数科「20よりおおきいかず」 授業者 広瀬 美穂教諭 第2学年 国語科「スイミー」 授業者 海沼 潤子教諭 第3学年 算数科「見やすく整理して表そう 授業者 島田 直美教諭 第5学年1組 算数科「比べ方を考えよう(2)」 授業者 志村 美貴緒教諭 第5学年2組 算数科「面積の求め方を考えよう」授業者 鈴木 敏弘教諭 第6学年2組 算数科「量の単位のしくみを調べよう」授業者 飯嶋 裕明教諭 すみれ教室 自立活動「教えてあげよう」 授業者 守岡 志のぶ教諭

Ⅲ. 成果と課題

(1) 成果

- ・言語活動の充実を図ることで、子どもたち自身の考えがよりはっきりと、確かなもの になっていった。
- ・言語活動(書く、発表する)を意識した授業づくりを行うことができた。
- ・自分の考えや思いを言葉で表出させてあげることが、より子ども自身に自己の考えを 再認識させることや、より明確にさせることにつながるということが分かった。
- ・考えを書くことを繰り返し行うことで、算数では説明だてて考えをまとめる力をつけてきている。
- ・「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた対応」についての学習会は大変勉強にな り、早速本校で取り入れ効果を実感している。

(2)課題

- ・子ども同士の意見を関わり合わせながら(全体を巻き込みながら),より深く思考し確かなものにしていくには,どう教師が子ども同士をつなげていけばよいのか。
- ・ノートに自分の考えを表現することはできても、全体の前でそれを表現しようとしな い子が多い。
- ・思考力・判断力・表現力の育成については、日々の学習や生活の中で継続的に意識して 指導していかないといけない。学年の発達段階を追った系統的な指導が必要だと思う。

(研究主任 海沼 潤子)